

高知県感染症発生動向調査（週報）

2019年 第48週 （11月25日～12月1日）

インフルエンザ予防接種はお早めに

インフルエンザワクチンを接種して抗体による予防効果が表れるには約2週間かかります。抗体は5ヶ月程度持続すると言われていたことから、流行が始まる12月頃までに接種することが望めます。予防接種には、インフルエンザウイルスに感染した場合に発症をある程度抑える効果や重症化を予防する効果があり、特に高齢者や基礎疾患のある方など、罹患すると重症化する可能性が高い方には効果が高いと考えられています。かかりつけ医等医療機関にご相談のうえ、予防対策の1つとして予防接種をご検討下さい。

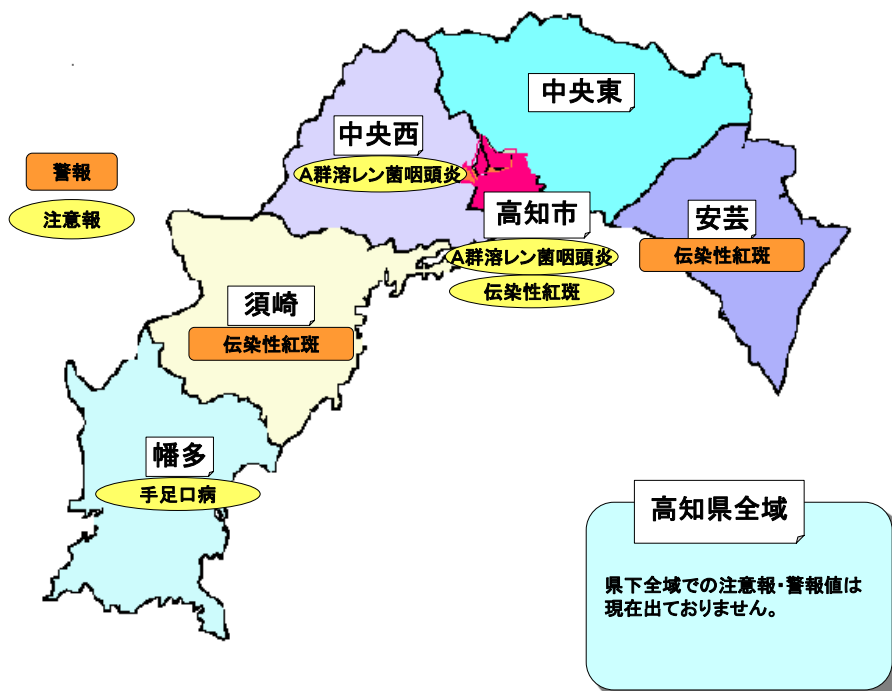
★県内での感染症発生状況

インフルエンザ及び小児科定点把握感染症（上位疾患5疾患）

↑：急増 ↗：増加 →：横ばい ↘：減少 ↓：急減

疾病名	推移	定点当たり報告数	県内の傾向
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	→	3.07	須崎、幡多で減少していますが、安芸で急増し、高知市、中央西では注意報値を超えています。
感染性胃腸炎	↗	2.23	中央西で急増、県全域、幡多、安芸、須崎で増加しています。
インフルエンザ	↗	1.02	安芸で急減していますが、中央西、幡多、須崎で急増、県全域、高知市で増加しています。
伝染性紅斑	→	0.97	高知市で減少していますが、安芸、須崎で急増、中央東で増加し、安芸、須崎では警報値を、高知市では注意報値を超えています。
手足口病	→	0.70	高知市、須崎で急減していますが、幡多で増加し、幡多では注意報値を超えています。

★地域別感染症発生状況



【感染症予防の基本】

予防接種は大切です。

予防接種とは、病気に対する免疫をつけたり、免疫を強くするために、ワクチンを接種することをいいます。ワクチンを接種した方が、病気にかかることを予防したり、人に感染させてしまうことで社会に病気が蔓延してしまうのを防ぐ効果があります。また、病気にかかったとしても、ワクチンを接種していた方は重い症状になることを防げる場合があります。

●高知県庁ホームページ 健康対策課感染症対策 予防接種について

<http://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/130401/kansen-yobousessyu.html>



★県内で注目すべき感染症（注意点や予防方法）

○インフルエンザが高知県全域で流行の目安とされている 1.00 を上回りました

学校等における集団発生

保健所		安芸	中央東	高知市	中央西	須崎	幡多	計
学級閉鎖	第48週	—	—	1	1	—	—	2
	累計	—	—	4	1	—	—	5
学年閉鎖	第48週	—	—	—	—	—	—	0
	累計	—	—	—	—	—	2	2
休校	第48週	—	—	—	—	—	—	0
	累計	—	—	—	—	—	1	1

学校等における集団発生の報告では学級閉鎖の報告が 2 件ありました。

また、インフルエンザ定点医療機関における迅速診断ではインフルエンザ A 型 47 件、B 型 1 件、不明 1 件の報告があります。

インフルエンザは、その年により流行の程度に差がありますが、例年 11 月頃から患者が増え始め、12 月から 3 月頃にかけて流行します。感染力が強く、いったん流行が始まると、短期間に多くの人へ感染が拡大することから、集団生活の場では特に注意が必要です。

<予防方法> 手洗いと咳エチケットを心がけましょう

インフルエンザの主な感染経路は咳やくしゃみの際に口から発生される小さな水滴（飛沫）による飛沫感染であることから、感染予防のため以下の咳エチケットに心がけてください。

- (1) 普段から皆が咳エチケットを心がけるとともにくしゃみを他の人に向けて発しないこと。
- (2) 咳やくしゃみが出るときはできるだけマスクをすること。
- (3) 手のひらで咳やくしゃみを受け止めた時はすぐに手を洗うこと。

【学校感染症】

インフルエンザは学校保健安全法（同法施行規則第 19 条）では、出席停止期間の基準が「発症した後 5 日を経過し、かつ、解熱した後 2 日（幼児にあっては、3 日）を経過するまで」と規定される学校感染症（第 2 種）です。ただし、この出席停止期間は病状により学校医その他の医師において感染のおそれがないと認めたときは、この限りでないと規定されています。

●厚生労働省 「インフルエンザ総合ページ」

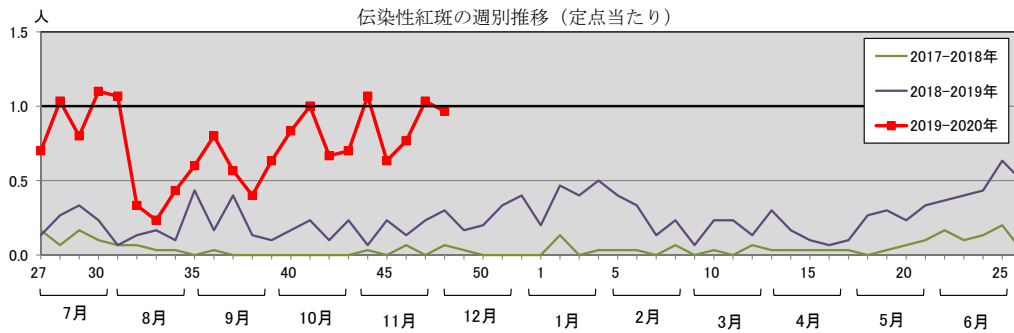
http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/kenkou/kekaku-kansenshou/infuenza/index.html

○伝染性紅斑（リンゴ病）気を付けて！

伝染性紅斑は別称「リンゴ病」と呼ばれ、頬がリンゴのように赤くなります。

7 日前後の潜伏期間があり、その後、両頬に鮮明な紅い発疹が現れ、体や手足に網目状の発疹が広がります。通常 1 週間程度でそれらは消失します。多くの場合、頬に発疹が出現する 7～10 日前に、微熱や風邪のような症状がみられ、この時期にウイルスの排出が最も多くなります。発疹が現れる時期にはウイルスの排出量は低下し、感染力もほぼ消失します。

妊娠中（特に妊娠初期）に感染した場合、まれに胎児の異常（胎児水腫）や流産が生じることがあるので注意が必要です。



<予防方法> 手洗いと咳エチケットです

飛沫感染や接触感染なので、手洗い、咳エチケット等の予防対策が有効です。予防接種はありません。ウイルス排泄時期には特徴的な症状を示さない場合もあるので、妊娠中あるいは妊娠の可能性のある女性は、できるだけ発熱などの症状のある患者との接触を避けるよう注意しましょう。

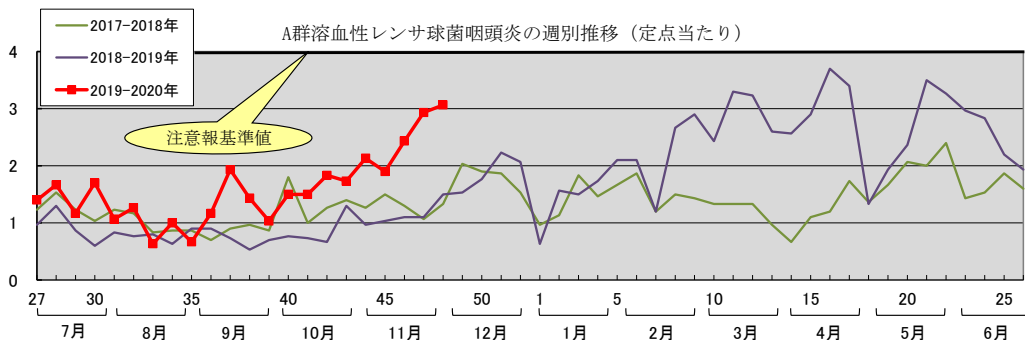
【学校感染症】

伝染性紅斑は学校保健安全法（同法施行規則第 19 条）では、出席停止期間の基準が「発疹（リンゴ病）のみで全身症状がよければ登校可能」と規定される学校感染症（第 3 種）です。ただし、この出席停止期間は病状により学校医その他の医師において感染のおそれがないと認めたときは、この限りでないと規定されています。

○A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎に気を付けて！

この病気は A 群レンサ球菌による上気道感染症です。

典型的な症状は、2～5 日の潜伏期を経て、突然 38℃以上の発熱、咽頭発赤、莓状の舌などがみられます。1 週間以内に症状は改善しますが、まれに重症化し、喉や舌、全身に発赤が広がる全身症状を呈することがあります。



<予防方法> 手洗い、咳エチケットが有効です

患者の咳やくしゃみなどのしぶきに含まれる細菌を吸い込むことによる「飛沫感染」あるいは細菌が付着した手で口や鼻に触れる「接触感染」が主な感染経路になります。患者との濃厚接触を避け、手洗い、咳エチケットを心掛けましょう。

☆ダニの感染症（日本紅斑熱・SFTS・つつが虫病）に注意！

「日本紅斑熱」や「SFTS（重症熱性血小板減少症候群）」は屋外に生息するダニの一種で、比較的大型（吸血前で3～4mm）の「マダニ」が媒介する感染症です。

「マダニに咬まれないこと」がとても重要です。

マダニは、暖くなる春から秋にかけて活動が活発になります。人も野外での活動が多くなることから、マダニが媒介する感染症のリスクが高まります（全てのマダニが病原体を持っているわけではありません）。

【マダニに咬まれないために】

- 長袖・長ズボン・長靴などで肌の露出を少なくしましょう。
- マダニに対する虫除け剤（有効成分：ディートあるいはイカリジン）を活用しましょう。
- 地面に直接座ったりしないよう、敷物を使用しましょう。
- 活動後は体や衣服をはたき、帰宅後にはすぐに入浴し、マダニに咬まれていないか確認しましょう。
- ペットの散歩等でマダニが付き、家に持ち込まれることがありますので注意しましょう。

また、「ツツガムシ」に咬まれることによって感染する「つつが虫病」にもご注意ください。高知県では秋から冬にかけて多く報告されており、ダニの一種である「ツツガムシの幼虫（0.2mm）」が媒介する感染症です。全てのツツガムシが病原体を持っているわけではありません。

予防対策については、マダニと同じく「ツツガムシに咬まれない」ことです。

屋外活動する時には、長袖や長ズボンで肌の露出を避けることや、ツツガムシに対する虫除け剤（有効成分：ディート）を活用するなどマダニと同様の対策をして注意しましょう。

発熱等の症状が出たとき

野山に入ってからしばらくして（数日～数週間程度）発熱等の症状が出た場合、医療機関を受診してください。受診の際、発症前に野山に立ち入ったこと（ダニに咬まれたこと）を申し出てください。

- 重症熱性血小板減少症候群（SFTS）に関する Q&A（厚生労働省）
http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou19/sfts_qa.html
- 高知県衛生環境研究所 ダニが媒介する感染症及び注意喚起パンフレット
<http://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/130120/2015111600016.html>

★病原体検出情報

受付週	臨床診断名	臨床症状	年齢	性別	保健所	ウイルス、細菌の検出状況
48	伝染性紅斑	38℃, 上気道炎, 発疹,	5	男	高知市	human parvovirus B19
48	不明熱	40℃,	1	男	須崎	Cytomegalovirus
48	不明熱	38℃,	10	女	須崎	Human herpes virus 7
48	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	39℃, 上気道炎,	8	女	高知市	<i>Streptococcus pyogenes</i> T1

前週以前に搬入

受付週	臨床診断名	臨床症状	年齢	性別	保健所	ウイルス、細菌の検出状況
47	手足口病	38℃, 水疱, 口内炎,	1	男	高知市	Coxsackievirus A16
47	—	38℃, 下痢, 腹痛,	2	男	中央東	Coxsackievirus A5
47	—	咳嗽, 口内炎,	2	女	高知市	Herpes simplex virus 1

<国内の手足口病由来ウイルス検出状況>

国内の手足口病由来のウイルス検出状況は、直近5週間（2019年第42週～第46週）では、Coxsackievirus A16の検出割合が最も多く75%（15件）、次いでCoxsackievirus A6が10%（2件）、Coxsackievirus A10が5%（1件）、Rhinovirusが5%（1件）、Human herpes virus 6が5%（1件）となっています。

<国内のインフルエンザウイルス検出状況>

国内のインフルエンザウイルス検出状況は、今シーズン直近5週（2019年第44週～第48週）では、AH1pdm09の検出割合が最も多く94%（85件）、次いでAH3が4%（4件）B（ビクトリア系統）が2%（2件）となっています。

★全数把握感染症

類型	疾病名	件数	累計	内 容	保健所
5 類	梅 毒	1	19	50 歳代 男	高知市
	百日咳	1	162	30 歳代 男	中央東

★定点医療機関からのホット情報

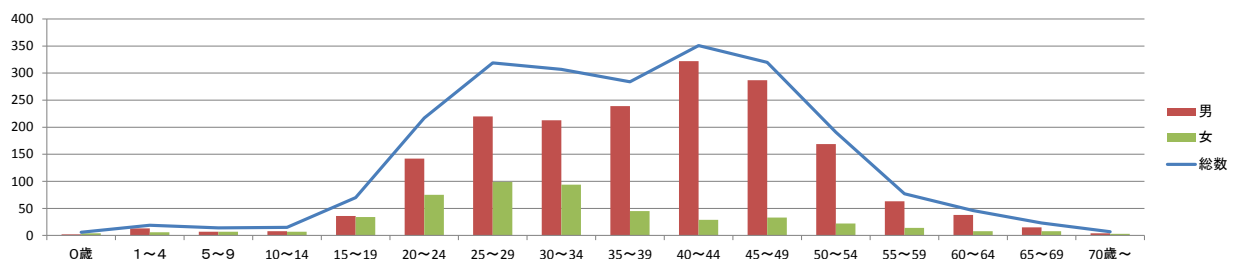
保健所	医療機関	情 報
中央東	おひさまこどもクリニック	溶連菌性間擦疹 1 例 (1 ヶ月男)
高知市	高知医療センター小児科	A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎 2 例 (7 歳男 2 人) インフルエンザ A 型 1 例
	けら小児科・アレルギー科	アデノウイルス咽頭炎 3 例 (0 歳、3 歳、5 歳) hMPV 気管支炎 1 例 (4 歳) 病原性大腸菌 O-6 腸炎 1 例 (15 歳) カンピロバクター腸炎 1 例 (14 歳) マイコプラズマ肺炎 2 例 (1 歳、10 歳)
	福井小児科・内科・循環器科	溶連菌感染症 9 例 帯状疱疹 1 例 (13 歳女) 伝染性紅斑 1 例 (8 歳男) インフルエンザ A 型 3 例 (ワクチン接種 2 回済み 2 人、 ワクチン未接種 1 人)
	ふないキッズクリニック	インフルエンザ A 型 2 例 (土佐市在住の家族)
	細木病院小児科	カンピロバクター 1 例 (10 歳女)
中央西	石黒小児科	インフルエンザが流行しはじめました。保育園・小学校を中心に 20 名
	くぼたこどもクリニック	溶連菌感染症 1 例 (10 歳女：仁淀川町) 水痘 1 例 (5 歳女：ワクチン 1 回済み)
	日高クリニック	hMPV 気管支炎 2 例 (3 歳男) マイコプラズマ肺炎 1 例 (15 歳女)
須 崎	もりはた小児科	ノロウイルス感染症 2 例 (8 ヶ月男、4 歳男)
幡 多	こいけクリニック	ノロウイルス胃腸炎 1 例 (6 ヶ月女) アデノウイルス扁桃炎 1 例 (10 歳女)
	さたけ小児科	アデノウイルス 1 例 (1 歳男) マイコプラズマ 1 例 (11 歳女) hMPV 1 例 (1 歳男) インフルエンザ A 型 3 例
	幡多けんみん病院小児科	hMPV 2 例 (1 歳男、4 歳女)

★県外で注目すべき感染症

○風しん、先天性風しん症候群を予防しましょう

2019 年第 1 週～47 週の報告数は 2,266 人となっており、95% (2,142 人) が成人で、30 歳から 50 歳代の男性を中心 (男性 1,778 人、女性 488 人) に報告数の多い状態です。

2019年累積風しん報告数(年齢別・性別)



妊婦、特に妊娠初期の女性が風しんにかかると、生まれてくる赤ちゃんにも感染し「先天性風しん症候群」という病気にかかってしまうことがあります。

風しんの予防にはワクチンを接種し、風しんに対する免疫を獲得することが有効です。風しんに対する十分な免疫があるかどうかは、抗体検査で確認することができます。

赤ちゃんが生まれつきの病気にならないよう家族みんなで風しん抗体検査を受け、免疫がない場合は予防接種を受けることをご検討ください。

【無料の風しんの抗体検査について】

現在県内では2つの事業で「風しん」に対して十分な免疫があるかどうか確認するため無料の抗体検査を実施しています。

対象者・高知県内在住（住所を有する者）の妊娠を希望する女性

- ・妊娠を希望する女性または風しんの抗体価が低い妊婦の配偶者など（生活空間を同一にする頻度が高い方。婚姻の届けを出していないが、事実上婚姻関係と同様の事情にある方を含む）
- ・風しんの追加的対策として、1972年（昭和47）年4月2日から1979年（昭和54）年4月1日生まれの男性について、一括してクーポン券を配布
1962（昭和37）年4月2日から1972（昭和47）年4月1日生まれの男性については、本人がクーポン券を希望する場合において、住所地の市町村が個別に発行

検査受付：実施医療機関ごとに異なりますので、受診を希望する医療機関に事前にお問い合わせください（住所を証明する書類（運転免許証や健康保険被保険者証等）を持参ください）

検査結果：検査後1～2週間後に郵送もしくは再来院にてお知らせいたします

厚生労働省「風しんの追加対策について」（風しん抗体検査・風しん第5期定期接種受託医療機関）

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/kenkou/kekkaku-kansenshou/rubella/index_00001.html

無料の風しん抗体検査の実施及び抗体検査の委託を受けた医療機関（高知県健康対策課ホームページ）

<http://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/130401/fushinkensa.html>

風しんの追加的対策 Q&A（対象者向け）<https://www.mhlw.go.jp/content/000493833.pdf>

【各医療機関管理者の皆様へ】

（高知県健康対策課 平成30年8月17日付け30高健対第859号「風しんの届出数の増加に伴う注意喚起」より）

- 1) 発熱や発疹を呈する患者を診察した際は、風しんに罹っている可能性を念頭に置き、最近の海外渡航歴及び国内旅行歴を聴取し、風しんの予防接種を確認するなど風しんを意識した診察をお願いいたします。
- 2) 風しんを疑う患者を診察した際は、確定診断のためのウイルス検査を県衛生環境研究所で行いますので、直ちに最寄りの福祉保健所又は高知市保健所へ届け出るようお願いいたします。

●風しんの追加的対策関係：医療機関・健診機関向け手引き（厚生労働省）

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/000116890_00003.html

●風しん Q&A2018年1月30日改訂版(国立感染症研究所)

<https://www.niid.go.jp/niid/ja/rubellaqa.html>

●風しんについて（厚生労働省）

https://www.mhlw.go.jp/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/kenkou/kekkaku-kansenshou/rubella/

●衛研ニュース第20号（高知県衛生環境研究所）30～50歳代の男性！風しんのことを知っていますか？

<http://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/130120/2018101000056.html>

発行：高知県感染症情報センター（高知県衛生環境研究所）
〒780-0850 高知市丸ノ内2-4-1（保健衛生総合庁舎2階）
TEL：088-821-4961 FAX：088-825-2869

この情報に記載のデータは2019年12月2日現在の情報により作成しています。調査などの結果に応じて若干の変更が生じることがありますが、その場合週報上にて訂正させていただきます。

★高知県感染症情報
疾病別・地域別報告数

高知県感染症情報(59定点医療機関)

第48週 令和元年11月25日(月)～令和元年12月1日(日)

高知県衛生環境研究所

定点名	疾病名	保健所	安芸	中央東	高知市	中央西	須崎	幡多	計	前週	全国(47週)	高知県(48週末累計)		全国(47週末累計)	
												H30/12/31～R1/12/1	H30/12/31～R1/11/24		
インフル エンザ	インフルエンザ			3	17	25	1	3	49 (1.02)	25 (0.52)	15,390 (3.11)	14,008 (291.83)	1,502,813 (304.40)		
小児科	咽頭結核熱				8	2		4	14 (0.47)	12 (0.40)	1,752 (0.55)	754 (25.13)	63,704 (20.19)		
	A群溶血性レンサ球菌 咽頭炎	2	10	56	13	4	7	92 (3.07)	88 (2.93)	8,085 (2.55)	2,941 (98.03)	301,415 (95.54)			
	感染性胃腸炎	4	13	23	9	3	15	67 (2.23)	53 (1.77)	13,662 (4.32)	4,980 (166.00)	705,710 (223.68)			
	水痘			3	1		1	5 (0.17)	14 (0.47)	1,382 (0.44)	363 (12.10)	47,033 (14.91)			
	手足口病				3	1		17	21 (0.70)	19 (0.63)	3,353 (1.06)	2,656 (88.53)	389,385 (123.42)		
	伝染性紅斑	6	4	11	2	5	1	29 (0.97)	31 (1.03)	1,756 (0.55)	717 (23.90)	98,613 (31.26)			
	突発性発疹		1	4	1	2	1	9 (0.30)	10 (0.33)	1,110 (0.35)	475 (15.83)	58,878 (18.66)			
	ヘルパンギーナ		2					2 (0.07)	2 (0.07)	445 (0.14)	760 (25.33)	95,626 (30.31)			
	流行性耳下腺炎							()	1 (0.03)	221 (0.07)	46 (1.53)	14,133 (4.48)			
	RSウイルス感染症				2			3	5 (0.17)	5 (0.17)	1,608 (0.51)	1,255 (41.83)	131,722 (41.75)		
眼科	急性出血性結膜炎							()	()	5 (0.01)	1 (0.33)	304 (0.44)			
	流行性角結膜炎			1				1 (0.33)	1 (0.33)	349 (0.50)	60 (20.00)	20,967 (30.21)			
基幹	細菌性髄膜炎							()	()	6 (0.01)	3 (0.38)	418 (0.87)			
	無菌性髄膜炎							()	()	15 (0.03)	5 (0.63)	712 (1.49)			
	マイコプラズマ肺炎			6				6 (0.75)	3 (0.38)	243 (0.51)	135 (16.88)	5,026 (10.49)			
	クラミジア肺炎 (オウム病は除く)							()	()	1 ()	4 (0.50)	84 (0.18)			
	感染性胃腸炎 (ロタウイルスに限る)							()	1 (0.13)	4 (0.01)	92 (11.50)	4,659 (9.73)			
計 (小児科定点当たり人数)	12 (6.00)	33 (4.56)	134 (11.05)	54 (14.66)	15 (7.25)	52 (10.18)	300 (9.17)			49,387	29,255 (790.04)	3,441,202			
前週 (小児科定点当たり人数)	9 (4.00)	37 (4.99)	137 (11.71)	27 (8.21)	14 (7.00)	41 (8.13)		265 (8.35)							

注 () は定点当たり人数。

高知県感染症情報(59定点医療機関) 定点当たり人数

定点名	疾病名	保健所	第48週							前週	全国(47週)	高知県(48週末累計)		全国(47週末累計)	
			安芸	中央東	高知市	中央西	須崎	幡多	計			H30/12/31～R1/12/1	H30/12/31～R1/11/24		
インフル エンザ	インフルエンザ		0.27	1.06	5.00	0.25	0.38	1.02	0.52	3.11	291.83	304.40			
小児科	咽頭結核熱				0.73	0.67		0.80	0.47	0.40	0.55	25.13	20.19		
	A群溶血性レンサ球菌 咽頭炎	1.00	1.43	5.09	4.33	2.00	1.40	3.07	2.93	2.55	98.03	95.54			
	感染性胃腸炎	2.00	1.86	2.09	3.00	1.50	3.00	2.23	1.77	4.32	166.00	223.68			
	水痘			0.27	0.33		0.20	0.17	0.47	0.44	12.10	14.91			
	手足口病			0.27	0.33		3.40	0.70	0.63	1.06	88.53	123.42			
	伝染性紅斑	3.00	0.57	1.00	0.67	2.50	0.20	0.97	1.03	0.55	23.90	31.26			
	突発性発疹		0.14	0.36	0.33	1.00	0.20	0.30	0.33	0.35	15.83	18.66			
	ヘルパンギーナ		0.29					0.07	0.07	0.14	25.33	30.31			
	流行性耳下腺炎								0.03	0.07	1.53	4.48			
	RSウイルス感染症				0.18			0.60	0.17	0.17	0.51	41.83	41.75		
眼科	急性出血性結膜炎									0.01	0.33	0.44			
	流行性角結膜炎			1.00				0.33	0.33	0.50	20.00	30.21			
基幹	細菌性髄膜炎									0.01	0.38	0.87			
	無菌性髄膜炎									0.03	0.63	1.49			
	マイコプラズマ肺炎			1.20				0.75	0.38	0.51	16.88	10.49			
	クラミジア肺炎 (オウム病は除く)									0.50	0.18				
	感染性胃腸炎 (ロタウイルスに限る)								0.13	0.01	11.50	9.73			
計 (小児科定点当たり人数)	6.00	4.56	11.05	14.66	7.25	10.18	9.17			790.04					
前週 (小児科定点当たり人数)	4.00	4.99	11.71	8.21	7.00	8.13		8.35							

病別年次報告数推移グラフ(インフルエンザ定点・小児科定点・眼科定点)

高知県感染症情報 疾病別年次報告数推移(2019年 第48週)

